

赤米文化を、未来を生むる子ども達へ

赤木サニット2017 in 南種子

鹿児島県南種子町／長崎県対馬市／岡山県総社市

2017年(平成29年)

11/25(土) 会場：南種子町福祉センターホール

13:00 - 16:00

主催：南種子町、南種子町教育委員会



南種子町長 名越 修

本日は、赤米サミット 2017in 南種子にご来場いただき、誠にありがとうございます。

南種子町は、歴史・文化遺産の宝庫と言われておりますが、なかでも、赤米は、全国で、岡山県総社市、長崎県対馬市、そして南種子町の三ヶ所にのみ伝わる大変貴重な古代米です。赤米を御神米とする「種子島宝満神社の御田植祭」は、種子島・屋久島で初めての国的重要無形民俗文化財に指定されています。また、対馬市の「豆駄の赤米行事」は国無形選択文化財に、総社市の「新本両国司神社の赤米の神饌」は県指定文化財となっていますので、三地域の赤米と赤米にまつわる文化は、日本の稲作文化を研究する上で学術的に非常に価値が高いとされています。

私たち三市町は、そうした地域の歴史・文化遺産である赤米を、地域の活性化につなげようと、平成 26 年 3 月から「赤米伝統文化交流協定」を結び、伝統文化の継承や交流事業、観光振興等を目指してまいりました。

特に、一昨年からは、赤米の「日本遺産」登録を目指す取り組みもはじめております。こうした赤米を縁とする伝統文化の継承と地域交流は、相川七瀬さんが架け橋となりスタートいたしました。

本日は、相川さんがこの島に来られる度におっしゃっています「赤米文化を、未来を生きる子ども達へ」というメッセージを心に留めながら、赤米などの伝統文化を活かした地域づくりと観光振興等について、パネルディスカッションを開催できればと思っております。

結びに、本シンポジウムの開催に当たり、多大な御支援と御協力をいただきました多くの皆様に心から感謝申し上げごあいさつと致します。

赤米サミット 2017 in 南種子 : シンポジウム

【 プログラム 】

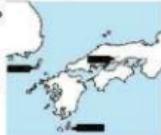
- 13:00-13:10 宝満神楽 宝満神楽保存会
13:10-13:25 開会行事
　　開会の挨拶 南種子町長 名越 修
　　来賓の挨拶 総社市長 片岡聰一
　　対馬市長 比田勝尚喜
13:25-13:55 基調報告 各赤米保存会
13:55-14:10 赤米発表 茎南小学校児童
14:10-14:30 伝承披露
　　ヒカリノミ・田植歌 茎南小学校児童
　　田植歌 花峰小学校児童
14:30-14:40 休憩
14:40-15:10 基調講演 相川七瀬
　　(コーディネーター) 小島摩文
15:10-15:50 パネルディスカッション
　　(コーディネーター) 小島摩文
　　(パネリスト) 相川七瀬 名越 修
　　片岡聰一 比田勝尚喜
　　喜多長藏 吉田俊哉
15:50-15:55 共同宣言
16:55-16:00 閉会の挨拶 南種子町教育長 遠藤 修

赤米伝統文化交流協定のあゆみ

平成26年3月1日、鹿児島県南種子町、岡山県総社市、長崎県対馬市の古代赤米を伝承する2市1町が、地域間交流を深め、「赤米文化」を未来の世代に継承していくことを目的に「赤米伝統文化交流協定」を結びました。

協定を結ぶ架け橋となったのが、歌手の相川七瀬さんです。

平成23年に音楽イベントで対馬市を訪れた際、古代赤米とその継承活動のことを知り、応援したいと考え、同様に古代赤米を伝承している南種子町、総社市を訪れ、各々の親善大使に就任し、交流するきっかけをつくりました。



赤米伝統文化交流のあゆみ

◆ 赤米サミット2000 in 千石村 H12.10.22 【南種子町】

幕末の千石村の呼びかけで1市2町（当時は長崎県厳原町）の関係者が終結し、連携して赤米を中心とした地域づくりを目指すことを確認した。



◆ 赤米伝統文化の交流協定 締結 H16.3.1 【対馬市】

3市町の首長と相川さんが署名を交わし、赤米を通じた文化継承や地域間交流に取り組む旨の協定が締結された。



◆ 赤米サミット2014 in くきなが H26.10.19 【南種子町】

3市町の保存会による活動報告の後、その代表により「友好と交流を深め、赤米文化を守り次の世代に伝える」旨の共同宣言を行った。



◆ 赤米サミット2015 in 新本 H27.6.14-15 【総社市】

意見交換会とサミットが行われ、赤米伝統文化の『日本遺産』認定を目指すことを確認した。



◆町制施行60周年記念シンポジウム

H28.9.25 【南種子町】

赤米の御田植祭の国文化財指定を記念して行われたシンポジウム。茎南小の体育館で行い、茎南小の児童がヒカリノミを披露。



◆赤米サミット2016 in 豆酸

H28.11.14 【対馬市】

対馬市で行われたサミット。豆酸小学校の体育館で行い、子ども達へ赤米の文化をつなげる糸口となった。



◆赤米フォーラム in 九州国立博物館

H29.1.20 【大宰府市】

九州国立博物館ホールで公開フォーラム開催。全国に情報発信し、日本遺産申請書を二市一町で合意したが、残念ながら、第1回目の申請は選外となった。



◆赤米、日本遺産へ再申請を決意

H29.6.25 【総社市】

総社市に二市一町のトップが集まり日本遺産申請の再チャレンジを総社市で決意した。



◆赤米サミット2017 in 南種子

H29.11.25 【南種子町】

赤米文化を、未来を生きる子ども達へをテーマに開催（本シンポジウム）。

岡山県総社市

しんじょう ほんじょうくに し

新庄・本庄国司神社の赤米



総社市の概要

市制施行：平成 17 年 3 月 22 日 1 市 2 村が合併

面 積：212.00 km² 人口：68,096 人（平成 28 年 8 月現在）

総社市は岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市と大きい都市に隣接しており、瀬戸内海特有の温暖、小雨の恵まれた気候となっています。

古来、吉備の国として栄え、飛鳥・奈良時代には国府が置かれ、備中の國の政治・経済・文化の中心として栄えました。平安時代には備中国内の神々を合祀した總社官が建てられ、總社市の名前はこれに由来しています。鎌倉時代以降、門前町、宿場町的性格に様変わりするとともに、豊かな農村地域としても発展しました。高度成長期の昭和 40 年代頃からは、県南工業地帯の発展に伴い宅地開発が進み、近年では歴史に培われた吉備文化と豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市として発展しています。

■ 赤米に関する年間行事

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
↑ (旧 1 月 6 日) 湯立 始祭 (新庄)		↑ (中旬) お田植祭		(10 日頃) (下旬) 稲刈り	↓ 稻刈り	↓ 稻割り	↓ 稻割り・選別	↑ (11 月 15 日) かほひの秋祭 けい立て湯立本庄 本庄国司 新庄国司神社			

新本両国司神社の赤米の神饌

（岡山県指定無形民俗文化財 S60.4.2 指定）

新本は、新庄と本庄が合併した地名でそれぞれに国司神社があります。両神社の氏子により神田や宮当番の水田に赤米が栽培されます。神饌とは、神様にお供えする飲食物の総称で、年始祭（本庄のみ）と霜月祭りには、赤米の荒米やご飯などを神にお供えします。参拝者には赤米で作った甘酒などがふるまわれます。また、湯立て神事（境内に釜を立て湯を沸かし小銭 1 枚、閏年は 1 3 枚と神酒と赤米でその年の豊凶を占う）を行います。

新庄かけり餅

新庄の国司神社で霜月祭りに合わせて行われる行事です。1 升餅をくくりつけたフクラシの木（約 2 メートル）を担いで約 100 段の石段を下り、神社北約 300 メートルの姥御前（神田跡地）まで競走して木を奉納し、餅を抱えて神社に戻る行事です。翌年の祭りの当番を決めるために始まったといわれる三百年以上も続く伝統行事です。

備中神楽（国重要無形民俗文化財 S54.2.24 指定）

備中神楽は、備中地方に伝わる神楽で、古来荒神様の魂を安らげ、五穀豊穣と家内安全を祈るために行われた荒神神楽でしたが、江戸時代末期、国学者の西林国橋が芸能的要素の強い神代神楽を加え、採物神楽の一つとして地方的特色が顕著で重要である、として指定されました。



写真提供：総社市教育委員会

長崎県対馬市

つ ま と く づ だ ま

豆駿多久頭魂神社の赤米



対馬市の概要



市制施行：平成16年3月1日 6町が対等合併
面積：708.67 km² 人口：31,963人（平成2年）

対馬市は山林が面積の89%を占め、天然記念物の龍山や白嶽や壱岐対馬国定公園のリアス式海岸・浅茅湾など、勇壮な自然が広がっています。また、ツシマヤマネコをはじめ対馬でしか見ることのできない動植物も多く、渡り鳥の中継地として世界有数の野鳥観察地となっています。

また、九州最北端に位置し、韓国釜山までわずか49.5kmで、古くから大陸と日本の架け橋的役割を担ってきました。その人的・物的交流を物語る有形・無形文化財が数多く残っています。現在でも対馬と釜山とで定期航路が就航しており、東アジアの交流拠点としての役割を果たしています。

■赤米に関する年間行事

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
餅つき	餅つき	餅つき	餅つき	餅つき	田植え	(10日) 田植え	赤米	稻刈り	(下旬) 稲刈り	お吊り坐し	牛醜酒

豆駿の赤米行事

（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）

長崎県厳原町豆駿に伝わる赤米を祀り、栽培する行事です。行事は頭仲間と呼ばれる集団によって、旧暦1月2日から旧暦12月末に至る1年間にわたって、様々な行事が行われます。これらは、伝統的な祭礼形態を残すものとして貴重な行事となっています。頭受け：行事の中心となる、頭役交替の行事です。御神体の赤米が前年の頭主（晴れ頭主）の家から次の頭主（受け頭）の家へと「神渡り」します。行事の行われる本座と呼ぶ座敷の床の間には、赤米で囲いた白型の餅三個とトコブシを盛りつけた松竹梅の三足膳を飾り、関係者は麻絆に正装します。本座の中央に吊られた神の像を降ろし、運搬役の背中に乗せられ、深夜、神様がお渡りして行きます。受け入れの儀式の後は直会となります。その後、夜明けとともに受け頭は正装のまま寺田（ご神田）に行き、床の間の三組の餅を寺田の水口に埋めます。

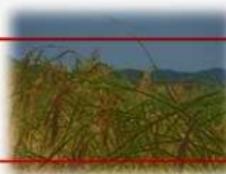
田植え：赤米の田植えは、村中の田植えが終了してから行います。寺田の水口に忌竹を立て、注連縄を張ります。茅三本を束ねた上にねずみ藻を供え、その上に赤米飯と梅干しを供え、頭受け当主が神酒を搾げ田の神を祭ります。その後、忌竹の前で供僧が数珠できません。また、種子として使用した赤米以外はこの田植えの神事用の昼食になります。



写真提供：対馬市教育委員会

鹿児島県南種子町

種子島宝満神社の赤米



宝満神社の赤米の特徴

1. 茎が長く背丈が150cm程になる。
2. モミの先端にあるノギが長く、総社や対馬の赤米はノギが赤く染まるのに対し、宝満神社の赤米は赤くない。
3. 湿田だけでなく、雨水による「天水田」や畑でも栽培可能な水稻・陸稲双方の性質を備えている。
4. ジャバニカ米という品種に近く、稻作が東南アジアから海の道を経て伝播した可能性を示している。
※ ジャバニカ米は日本の一般的な品種、ジャボニカ米の亜種（熱帯ジャボニカ）といわれる品種で、主にインドネシアなど熱帯地域で栽培されている品種である。

■赤米に関する年間行事

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
↑ (2/1) 木口祭り	↑ (3/21) 祈願祭	↑ (4/3) 御田植祭						↑ (下旬) 稲刈り		↑ (10/19) 廟成就祭	

■種子島宝満神社の御田植祭

（国重要無形民俗文化財 H28.3.2 指定）

宝満神社の神田に赤米を植えて豊作を祈願する農耕行事です。神田に隣接した自然の小高い山（御田の森）での祈祷で授かった米の苗を神田に植えており、我が国の農耕行事の古い姿がうかがわれ、また、赤米という独特の米を儀礼的に用いることや田植後に舟田で御田植舞が奉納されることなど、地域的特色も豊かであり、我が国の稻作に関わる農耕行事の変遷や意義を理解する上で重要である、として、平成28年3月2日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

まず、御田の森で神事とお苗授けの儀を行い、神田で田植えを行います。田植えは田植歌と太鼓にあわせて男性のみで行います。次いで神田に隣接した舟田で氏子の中の夫婦一組が両手に苗をもって御田植舞を舞い、宝満神楽が奉納され、最後に直会となります。直会では前年に収穫された赤米の握り飯が振舞われます。

神米である赤米を食する唯一の機会で、直会で出されたものを食べると、1年間無病無災に過ごすことができると言われています。



■宝満神社赤米お田植え祭り保存会

種子島宝満神社の御田植祭の保存団体です。会長は、宝満神社総代会長がつとめ、副会長として、宝満神社宮司、茎永地区自治公民館長、宝満神社総代会副会长の3名がいます。会員は、宝満神社の氏子ですが、特に、宝満神社総代と茎永地区自治公民館役員、各集落自治公民館長、御田植歌の歌い手、舞手などが重要な役割を担っています。



■茎永宝満神楽保存会



平成10年、総社市の国指定重要無形民俗文化財「備中神楽」が宝満神社で披露されたことをきっかけに、宝満神社の御田植祭を題材とした神楽を創作しようと、「茎永宝満神楽保存会（当初は宝満神社神楽を創る会）」を立ち上げました。創作には、備中神楽を伝承する社中の一つ、『総社社中』の神楽師横田博志氏に指導いただきました。

宝満神楽は、猿田彦命舞・玉依姫命舞・事代主命舞（恵比寿舞）・御田植舞（ホイトウの舞）からなり、ホイトウなど茎永の昔ながらの農耕技術を題材とした御田植舞など、地域の特色を取り入れています。



長崎県対馬市

豆般多久頭魂神社の赤米



対馬市の概要



市制施行：平成16年3月1日 6町が対等合併

面積：708.67 km² 人口：31,963人（平成2年）

対馬市は山林が面積の8.9%を占め、天然記念物の龍良山や白嶽や壱岐対馬国定公園のリアス式海岸浅茅湾など、勇壮な自然が広がっています。また、ツシマヤマネコをはじめ対馬でしか見ることのできない動植物も多く、渡り鳥の中継地として世界有数の野鳥観察地となっています。

また、九州最北端に位置し、韓国釜山までわずか49.5kmで、古くから大陸と日本の架け橋的役割を担ってきました。その人的・物的交流を物語る有形・無形文化財が数多く残っています。現在でも対馬と釜山と定期航路が就航しており、東アジアの交流拠点としての役割を果たしています。

■赤米に関する年間行事

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
豆般頭受け	餅つき	茅三本	茅垂れ	田植え	(10日)	田植え	赤米	餅つき	お吊り坐し	糸割り・選別	斗瓶酒
餅つき	茅垂れ	茅三本	茅垂れ								
豆般頭受け											

豆般の赤米行事

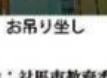
（記録作成等の措置を講すべき無形民俗文化財）

長崎県戸畠原町豆般に伝わる赤米を祀り、栽培する行事です。行事は頭仲間と呼ばれる集団によって、旧暦1月2日から旧暦12月末に至る1年間にわたって、様々な行事が行われます。これらは、伝統的な祭礼形態を残すものとして貴重な行事となっています。頭受け：行事の中心となる、頭役交替の行事です。御神体の赤米が前年の頭主（晴れ頭主）の家から次の頭主（受け頭）の家へと「神渡り」します。行事の行われる本座と呼ぶ座敷の床の間には、赤米で掘いた白型の餅三個とトコブシを盛りつけた松竹梅の三足膳を飾り、関係者は麻呂に正装します。本座の中央に吊られた神の俵を降ろし、運搬役の背中に乗せられ、深夜、神様がお渡りして行きます。受け入れの儀式の後は直会となります。その後、夜明けとともに受け頭は正装のまま寺田（ご神田）に行き、床の間の三組の餅を寺田の水口に埋めます。

田植え：赤米の田植えは、村中の田植えが終了してから行います。寺田の水口に忌竹を立て、注連縄を張ります。茅三本を束ねた上にねずみ藻を供え、その上に赤米飯と梅干しを供え、頭受け当主が神酒を捧げ田の神を祭ります。その後、忌竹の前で供僧が数珠できません。また、種子として使用した赤米以外はこの田植えの神事用の昼食になります。



赤米



写真提供：対馬市教育委員会

茎南小学校

校長 福留和弘 全児童生徒 27名 職員 10名

創立 139 年の伝統校で、ロケット打ち上げ場に一番近い小学校。

国文化財「種子島宝満神社の御田植祭」と赤米の縮刈りに毎年参加。

本年度で 22 期を迎える宇宙留学生の実施校としても有名。

宝満神社の御田植歌



イヤ、若い子よ若い子、イヤ、髪をなづる若い子、
イヤ、なずればの若い子、イヤ、しなよけれ若い子
イヤ、品（しな）もしなにより候（そうろう）、イヤ、吉野の山の品さんぞ
イヤ、ここは何故（なしかあ）、坪田、イヤ、え作らじの坪田（つぼいだ）
イヤ、坪の神よ坪の神、イヤ、助けてたもれよ坪の神
イヤ、助けてたもらぬことなれば、イヤ、秋を待って穂拾うて
イヤ、よか稲の種子など、イヤ、摺ったりもんだり種子にしよう
イヤ、糉を五合まいたれば、イヤ、糉は五石五合よ
イヤ、荒元（あらもと）摺りましたほどに、イヤ、一石八斗に摺りなした
イヤ、三斗（さんと）三斗三斗に、イヤ、九斗の酒を飲もよ
イヤ、九斗の酒を飲むからは、イヤ、肴なしじゃ飲めんよ
イヤ、肴（さかな）はと問うたれば、イヤ、鰯の白干しきすの魚（いお）
イヤ、いっちよう田の水口に、イヤ、皆来てすわりて飲もうよ
イヤ、沖の沖の田中に、イヤ、えぶりさす田中よ
イヤ、えぶり棒はささいで、イヤ、君の心をおさしやれ
イヤ、早よう植えて田植えて、イヤ、田主殿（たぬしどん）とねてゆこう
イヤ、田主どんとねるからは、イヤ、息子の田主とねてゆこう
イヤ、どこを枕にねてゆこう、イヤ、畦を枕にねてゆこう
イヤ、苗をたもれ田作ろう、イヤ、手苗たもれ田作ろう
イヤ、思うやつの手苗は、イヤ、おのずとこぼれかかるよ
イヤ、憎いやつの手苗は、イヤ、ひっからこうてからこうて

花峰小学校

校長 白川淳朗 全校児童15名 職員8名
創立138年の伝統校で、県指定文化財「南種子町のインギー鶴」を校内で飼育し、守り伝えている。

町文化財「下中八幡神社の御田植祭」にも毎年参加。

ウミガメ放流なども行っている。



下中八幡神社の御田植歌

田作り娘よ若い子 田を作つて見せろうか
髪をなづる若い子 なーずればーの若い子
品がよけれ若い子 品も家によりそうろう
吉野の山の品さんぞ 吉野の山の品さんぞ
ここはなしかあ坪田か え作らじの坪田
坪の神の坪の神 助けてたもれよ坪田よ
坪にはいったバジョウ そこから年寄りそがきだせ
いっちゅう田の水口に うっちゅうなして飲もうよ
山の下の松が梅 月の星が光るよう
月でも星でもないけれど 若い時光るよう
早う植えて田植えて 田主どんとねてゆこう
どうでも田主とねるときは 息子の田主とねてゆこう
どこを枕にねてゆこう あぜを枕にねてゆこう
日さえくるれば田主が 目つき鼻つきおそろしか
田かぎりというときは ふんぱりふんぱり作れよ
苗かぎりというときは ふみこみおしこみ作れよ

赤米サミット 2017in南種子 シンポジウム パネリスト紹介

基調講演 相川 七瀬 コーディネーター 小島 摩文

パネリスト 片岡 聰一 × 比田勝 尚喜 × 名越 修

相川 七瀬 × 小島 摩文 三代目喜多長蔵 × 吉田 俊哉



相川 七瀬【ミュージシャントニー大樹】
「夢見る少女じゃられない」で歌手デビュー。1stアルバム「Red」が280万枚以上のセールスを記録するなど、日本のトップミュージシャンとして活躍する一方で、日本の伝統文化、特に「赤米文化」を次の世代に伝える活動を継続的に行っている。



小島 摩文【鹿児島県女子大学教授】
東京都北区出身。下野敏見氏に師事し奄美や十島村等の博物館で学芸員を歴任した後、総合研究大学院大学に学び、平成12年より鹿児島純心女子大学で教鞭をとる。南種子町の民俗文化財調査委員長として宝満神社の御田植祭の国指定に尽力。



片岡 聰一【総社市長】
岡山県総社市出身。青山学院大学法学部卒。昭和59年に橋本龍太郎市議事務所に入所し平成8年に内閣総理大臣公設第一秘書。以後、行政改革・沖縄北方担当大臣秘書官などを歴任し、平成19年より総社市長。平成22年より倉敷芸術科学大学客員教授。



比田勝尚喜【対馬市長】
長崎県旧上対馬町（現対馬市）出身。昭和52年上対馬町役場に奉職。対馬市農林水産部長、対馬市副市長等を歴任後、平成28年より対馬市長。
剣道（教士7段）。「歴史×食事×観光」の掛け算で持続可能な観光づくりに取り組んでいる。



名越 修【南種子町長】
鹿児島県南種子町出身。
平成19-22年及び平成27年から南種子町長。この間、広田跡遺跡、種子島宝満神社の御田植祭などが国文化財に指定されるなど、地域の伝統文化を活かした町の発展に取り組んでいる。



三代目喜多長蔵【染色作家】
京都で祖父の代から染物一筋に、万葉集に詠まれている古代の色を「萬葉染」として再現。赤米を用いた萬葉染は特に評価が高く、日本全国、遠くはアメリカまで「萬葉染」のワークショップを開催し、染物の文化を伝えている。



吉田俊哉【株式会社日本銀行マネジャー】
福岡県出身。平成29年度より地域おこし企業人材派遣協定により、南種子町に派遣。これまで培ったノウハウを駆使し、赤米などの地域の魅力を活かした観光プランの開発や地域の魅力の再発見、商品化などに取り組んでいる。



基調講演

「赤米文化を、未来を生きる子ども達へ」

講師：相川 七瀬

コーディネーター：小島 摩文



地域おこし協力隊メンバー紹介

白田 学



出身地 千葉県 年齢 40歳

東京都世田谷区で大工を5年。
平成29年2月、家族（娘、子供1人）
と共に南種子町に移住。
自然豊かな環境で子育てをして地域を
盛り上げられたらと考えています。

橋本啓太



25歳／大分県出身／独身

南種子町観光物産館、トンミー市場か
ら、南種子を盛り上げようと頑張って
います。南種子町のいいところを皆さ
んに知りたいだければと思います。

森本記心



南種子町地域おこし協力隊の森本です！
種子島で開催する宇宙芸術祭を担当して
います。
盛り上げていきたいと思います。頑張り
ます！

服部節子



出身地 京都府

自然豊かな場所で子育てをしたいとい
う思いからです。まずはこの土地のことを
よく感じて、南種子町の魅力を様々な角
度から映像などのビジュアルで発信して
いきたいと思います！

横山 勉



出身地 東京都 年齢 45歳

町のあたたかさに助けられながら
日々の業務にあたっております。
この町の知名度がさらに上がってく
る観光や移住で多くの人がやってく
るよう頑張ります。

小園孝正



出身地 :熊本県

移住年：2017年
居住地区：南種子町下中地区
熊本から妻・子供（男）3人の家
族5人で種子島に参りました。
まずは、地元の方との繋がりを第
一に何事もがんばります！！

池龟浩志



48歳 Uターン 家族：独身

現在、移住定住対策のお手伝いと
して小冊子やウェブサイトの制作
とメンテナンス、空き家調査など
に携わっております。

赤米商品の紹介（南種子町で商品として販売されているもの）



【地域おこし協力隊赤米活用について】

南種子町の特産品でもある「赤米」の活用方法として、いまある赤米商品からさらに α となるような活用ができないかと地域おこし協力隊内でも活動しています。

地域おこし協力隊では、「赤米のうるち玄の米粉」に着目して米粉を使用したお菓子などの商品を、試行錯誤を繰り返しありまだ試作段階ではありますが、新たな活用法を探るべく挑戦中です。



【赤米の饅頭】



【赤米の三色グラデ饅頭】



【赤米と安納芋のブチケーキ】



【赤米うどん】



【赤米のブチ饅頭】

また「赤米のうるち玄」の米粉の製粉加工の作業過程において、削り方の段階を分けて製粉加工することで、完成時の見た目の色合いの違いや食した時の食感もそれぞれ違うことに着目して三種類できた米粉を、『一番削り赤米粉』・『二番削り赤米粉』・『三番削り赤米粉』と命名し試作段階にて使用しています。

その三種類の米粉の違いも活かせるようなお菓子など、三色パターンや三色グラデーションのバージョン違いも合わせてただいま試作の活動中です。



1 番削り赤米粉使用

2 番削り赤米粉使用

3 番削り赤米粉使用

茎永地区自治公民館による赤米を用いた地域おこし

茎永地区自治公民館では、宮里照夫館長、外園香副館長を中心に宝満神社の御神米と「はやつくし」をかけあわせた赤米「玉依姫」を使った料理やお菓子の開発、赤米を用いた地域おこし活動などを展開してきた。



ツノマキ用に炊いた赤米



赤米のツノマキ

また、たねがしま赤米館を活用し、2014年には、総社市、対馬市、南種子町の赤米保存会をつなげ、保存会による赤米協定に尽力した。

茎永は、1つの校区の中に、地域が守ってきた国の民俗文化財が1件、県の民俗文化財が1件あり、伝統文化の宝庫である。茎永地区は、文化・歴史遺産を活かした地域の活性化に取り組んでいる。



保存会による赤米協定



たねがしま赤米館

赤米サミット 2017 in 南種子

主催：南種子町 南種子町教育委員会

後援：赤米伝統文化交流協議会、総社市、対馬市、総社市教育委員会、対馬市教育委員会、

宝満神社赤米お田植え祭保存会、豆駄赤米行事保存公、総社市本庄園司神社赤米保存公、

総社市新庄園司神社赤米保存会、茎永地区自治公民館

事業：離島活性化交付金事業「文化遺産を活かした交流促進事業」

編集：南種子町教育委員会社会教育課

発行：南種子町教育委員会 住所：〒891-3792 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1 TEL0997-26-1111

